

大学番号：私012

注3

[平成29年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

岩手保健医療大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 二戸学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ゴトウ 後藤 タイスケ 泰輔

電話番号 019-606-7030

F A X 019-606-7031

e-mail soumu@iwate-uhms.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 二戸学園

(2) 大学名

岩手保健医療大学

(3) 大学の位置

〒020-0045

岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目6番30号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	イシヤマ テツ 石山 哲 (平成26年11月)		
学長	シミズ テツロウ 清水 哲郎 (平成29年4月)		
学部長	ハマナカ キヨ 濱中 喜代 (平成29年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	80人	年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 (-) [-]	0 (-) [-]	80 (-) [-]	0 (-) [-]	80 (-) [-]	0 (-) [-]			0.90 倍	-	
志願者数	163 (-) [-]		148 (-) [-]		123 (-) [-]						
受験者数	147 (-) [-]		140 (-) [-]		117 (-) [-]						
合格者数	124 (-) [-]		124 (-) [-]		104 (-) [-]						
B 入学者数	78 (-) [-]		78 (-) [-]		61 (-) [-]						
入学定員超過率 B/A	0.97		0.97		0.76						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	78 [-] (-)	- [-] (-)	81 [-] (3)	- [-] (-)	62 [-] (1)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		72 [-] (-)	- [-] (-)	87 [-] (9)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		63 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	78 [-] (-)		153 [-] (3)		212 [-] (10)								

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した**在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	78人	3人	平成29年度	3人	0人	学力不足(1人)、進路変更(1人) 学生個人の心身に関する事情(1人)
平成30年度	153人	2人	平成29年度	2人	0人	進路変更(1名)、就学意欲の低下(1名)
			平成30年度	人	人	
平成31年度	212人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計		5人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{78} = \boxed{3.84} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{153} = \boxed{1.30} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{212} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	探求の基礎	1前	2			1						1
	英語Ⅰ	1後	2									1
	英語Ⅱ	2前	2									1
	医療英語	4後		1								1
	情報処理	1前	2									1
	調査と統計	3後	2									1
	基礎ゼミナール	1通	2			6	2	3	6			3
	健康とスポーツ	2通		2								1
	対人コミュニケーション	1前	1			1						1
	人間関係	1後	1			1						1
	人間と心理	1前		1								1
	発達と教育	1後		1								1
	人間の生涯発達	1後	2			3	1	1				
	人間の生と死	2後	1			2						
	東アジアの文化	4後		1		1						
	西ヨーロッパの文化	4後		1		1						
	地域の文化	1前		1		1						
	暮らしの科学	1前		1								2
	人間と文化	1後		1								1
	家族という社会	2前		1								1
憲法	2前		2								1	
社会と福祉	3前		1								1	
小計(22科目)		22	9	0	17	3	4	6	0		18	
専門基礎科目	自然科学	1前	1									1
	環境生態学	1前		1								1
	生化学	1前	1									1
	形態機能学	1前	2									2
	病態生理学	1後	2									1
	疾病治療論Ⅰ	1後	2									5
	疾病治療論Ⅱ	2前	2									7
	疾病治療論Ⅲ	2後	1									3
	ヘルスアセスメント	1前	1			1	1		2			
	メンタルヘルス論	1後		1		1						0
	臨床栄養学	2前	1									1
	臨床薬理学	2後	1									1
	ボランティア論	1後		1								1
	感染症学	1後	2									1
	ヘルスプロモーション論	3前	2			1		1				1
	チーム医療論	2後	2									1
	医療経済学	4後		2								1
	公衆衛生学・疫学	3前	2									1
	災害援助論	3前	1					1				1
保健医療福祉行政論	4前	2			1		1				1	
小計(20科目)		25	5	0	4	1	3	2	0		31	
看護学	看護学概論	1前	2			1						
	早期体験実習	1前	1			3	2	3	3	8		
	基礎看護援助論	1前	2			1	1					
	生活援助技術論	1後	2			1	1		2			
	看護理論	1後	1			1						
	生活援助実習	1後	2			3	3	3	4	7		
	看護倫理	2前	1			2		1				
	家族看護論	2後	1			1						
	療養援助技術論	2前	2			1	1		2			
	看護過程論	2前	1			2	2		6			
	療養援助実習Ⅰ	2前	2			1	3	2	3	7		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	探求の基礎	1前	2			1						
	英語Ⅰ	1後	2									1
	英語Ⅱ	2前	2									1
	医療英語	4後		1								1
	情報処理	1前	2									1
	調査と統計	3後	2									1
	基礎ゼミナール	1通	2				7	3	4	6		2
	健康とスポーツ	2通		2								1
	対人コミュニケーション	1前	1				1					1
	人間関係	1後	1				1					0
	人間と心理	1前		1								1
	発達と教育	1後		1								1
	人間の生涯発達	1後	2				3	1	1			
	人間の生と死	2後	1				1					
	東アジアの文化	4後		1			1					
	西ヨーロッパの文化	4後		1			1					
	地域の文化	1前		1			0		1			0
	暮らしの科学	1前		1								2
	人間と文化	1後		1					1			0
	家族という社会	2前		1					1			0
憲法	2前		2								1	
社会と福祉	3前		1					1			0	
小計(22科目)		22	9	0	16	4	9	6	0		14	
専門基礎科目	自然科学	1前	1									1
	環境生態学	1前		1								1
	生化学	1前	1									1
	形態機能学	1前	2									2
	病態生理学	1後	2									1
	疾病治療論Ⅰ	1後	2									5
	疾病治療論Ⅱ	2前	2									7
	疾病治療論Ⅲ	2後	1									3
	ヘルスアセスメント	1前	1				1	1		2		
	メンタルヘルス論	1後		1			1					0
	臨床栄養学	2前	1									1
	臨床薬理学	2後	1									1
	ボランティア論	1後		1					1			0
	感染症学	1後	2									1
	ヘルスプロモーション論	3前	2				1		1			0
	チーム医療論	2後	2						1			0
	医療経済学	4後		2								1
	公衆衛生学・疫学	3前	2									1
	災害援助論	3前	1				1		0			0
保健医療福祉行政論	4前	2				1		1			0	
小計(20科目)		25	5	0	5	1	4	2	0		26	
看護学	看護学概論	1前	2			1						
	早期体験実習	1前	1			3	3	3	4	8		
	基礎看護援助論	1前	2			1	1					
	生活援助技術論	1後	2			1	1		2			
	看護理論	1後	1			1						
	生活援助実習	1後	2			3	3	3	4	7		
	看護倫理	2前	1			2		1				
	家族看護論	2後	1			1						
	療養援助技術論	2前	2			1	1		2			
	看護過程論	2前	1			2	2	1	6			
	療養援助実習Ⅰ	2前	2			1	3	2	3	7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	療養援助実習Ⅱ	2後	2			1	3	3	3	7	
	成人看護学概論	1後	1				1				
	成人看護援助論	2前	1				1	1	1		
	生活習慣看護論	2後	1				1				
	慢性期看護技術論	3前	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3前	2				1		1	1	
	急性期看護技術論	3後	1				1	1	1	1	
	がん看護論	3前	1					1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	2					1	1	1	
	老年看護学概論	1後	1				1				
	老年看護援助論	2前	2				1	1			
	老年看護技術論	2後	1				1	1			
	老年看護学実習	3前	2				1	1		2	
	母性看護学概論	2前	1				1				
	母性看護援助論	2後	2				1		1		
	母性看護技術論	3前	1				1		1		
	母性看護学実習	3通	2				1		1	1	
	小児看護学概論	2前	1				1				
	小児看護援助論	2後	2				2		2		
	小児看護技術論	3前	1				2		1		
小児看護学実習	3通	2				2		2	1		
精神看護学概論	2前	1				1					
精神看護援助論	2後	2				1				2	
精神看護技術論	3前	1				1		1			
精神看護学実習	3後	2				1		1	1		
小計(36科目)			53	0	0	38	25	17	37	36	2
統合科目	在宅看護学概論	3前	1			1		1			
	在宅看護援助論	3後	1			1		1			
	保健医療福祉連携論	3後	1					1		1	
	在宅看護技術論	4前	1			1		1			
	在宅看護学実習	4前	2			1		1		2	
	地域看護学概論	3後	1			1					
	地域看護援助論	3後	1			1		1		1	
	公衆衛生看護技術論	4前		2		1		1		1	
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1		1		1	
	地域看護学実習	4前	1			1		1		1	
	公衆衛生看護学実習	4前		4		1		1		1	
	リハビリテーション看護論	3前	1							1	
	放射線看護論	3後	1							2	
	セクシャルヘルスアセスメント	3後	1			1					
	エンドオブライフケア論	3後	1			2		2			
	災害看護論	4前	1					1		1	
	感染看護論	4前		1							1
	看護教育論	4前		1		1					
	看護管理論	4前		1			1				1
	救急看護論	4後		1			2				
	国際看護論	4後		1				1			1
	臨床倫理	4後	1			2					
	総合実習	4後	2			8	3	3	6		1
	看護研究方法論	3後	1			1					1
	卒業研究ゼミナール	4通	4			9	3	3	6		3
小計(25科目)			20	15	0	34	9	20	12	4	18
合計(103科目)			120	29	0	93	38	44	57	40	69
卒業要件及び履修方法											
必修科目120単位、基礎科目、専門基礎科目の選択科目からそれぞれ1単位以上、統合科目の選択科目から3単位以上、計125単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:41単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	療養援助実習Ⅱ	2後	2			1	3	2	2	7	
	成人看護学概論	1後	1				1				0
	成人看護援助論	2前	1				1	1	1		
	生活習慣看護論	2後	1				1				
	慢性期看護技術論	3前	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3前	2				1		1	1	
	急性期看護技術論	3後	1				1	1	1	1	
	がん看護論	3前	1					1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	2					1	1	1	1
	老年看護学概論	1後	1				1				
	老年看護援助論	2前	2				1	1			
	老年看護技術論	2後	1				1	1			
	老年看護学実習	3前	2				1	1		2	
	母性看護学概論	2前	1				1				
	母性看護援助論	2後	2				1			2	
	母性看護技術論	3前	1				1			2	
	母性看護学実習	3通	2				1			2	1
	小児看護学概論	2前	1				1				
	小児看護援助論	2後	2				2			2	
	小児看護技術論	3前	1				2			1	
小児看護学実習	3通	2				2			2	1	
精神看護学概論	2前	1				1				0	
精神看護援助論	2後	2				0		1		1	
精神看護技術論	3前	1				1		1	0		
精神看護学実習	3後	2				1		1	0	1	
小計(36科目)			53	0	0	37	27	20	38	36	1
統合科目	在宅看護学概論	3前	1			2		0			
	在宅看護援助論	3後	1			2		0			0
	保健医療福祉連携論	3後	1					0			0
	在宅看護技術論	4前	1			1		0			
	在宅看護学実習	4前	2			1		0		2	
	地域看護学概論	3後	1			1					
	地域看護援助論	3後	1			1		1			0
	公衆衛生看護技術論	4前		2		1		1		1	0
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1		1		1	0
	地域看護学実習	4前	1			1		1		1	0
	公衆衛生看護学実習	4前		4		1		1		1	0
	リハビリテーション看護論	3前	1							1	
	放射線看護論	3後	1							2	
	セクシャルヘルスアセスメント	3後	1			1					
	エンドオブライフケア論	3後	1			2		1			
	災害看護論	4前	1			1		0			0
	感染看護論	4前		1							1
	看護教育論	4前		1		1					
	看護管理論	4前		1			1				1
	救急看護論	4後		1			2				
	国際看護論	4後		1					1		1
	臨床倫理	4後	1			2					
	総合実習	4後	2			8	3	3	6		1
	看護研究方法論	3後	1			1					0
	卒業研究ゼミナール	4通	4			8	3	4	6		2
小計(25科目)			20	15	0	36	9	14	12	4	9
合計(103科目)			120	29	0	94	41	47	58	40	50
卒業要件及び履修方法											
必修科目120単位、基礎科目、専門基礎科目の選択科目からそれぞれ1単位以上、統合科目の選択科目から3単位以上、計125単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:41単位(年間))											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	探求の基礎	1前	2			1								
	英語 I	1後	2										1	
	英語 II	2前	2										1	
	医療英語	4後		1									1	
	情報処理	1前	2										1	
	調査と統計	3後	2										1	
	基礎ゼミナール	1通	2			4	3	4	5				3	
	健康とスポーツ	2通		2									1	
	対人コミュニケーション	1前	1			0							2	
	人間関係	1後	1			0							1	
	人間と心理	1前		1									1	
	発達と教育	1後		1									1	
	人間の生涯発達	1後	2			2	1	1						
	人間の生と死	2後	1			1								
	東アジアの文化	4後		1		1								
	西ヨーロッパの文化	4後		1		1								
	地域の文化	1前	1			0							1	
	暮らしの科学	1前	1											2
	人間と文化	1後	1										1	
家族という社会	2前	1										1		
憲法	2前		2									1		
社会と福祉	3前	1										1		
小計(22科目)			22	9	0	10	4	5	5	0		21		
専門基礎科目	自然科学	1前	1										1	
	環境生態学	1前		1									1	
	生化学	1前	1										1	
	形態機能学	1前	2										2	
	病態生理学	1後	2										1	
	疾病治療論 I	1後	2										5	
	疾病治療論 II	2前	2										7	
	疾病治療論 III	2後	1										3	
	ヘルスアセスメント	1前	1			1	1		2					
	メンタルヘルス論	1後		1		0							1	
	臨床栄養学	2前	1										1	
	臨床薬理学	2後	1										1	
	ボランティア論	1後		1									1	
	感染症学	1後	2										1	
	ヘルスプロモーション論	3前	2			1		1					1	
	チーム医療論	2後	2										1	
	医療経済学	4後		2									1	
	公衆衛生学・疫学	3前	2										1	
	災害援助論	3前	1					1					1	
保健医療福祉行政論	4前	2			1		1					1		
小計(20科目)			25	5	0	3	1	3	2	0		32		
専門科	看護学概論	1前	2			1								
	早期体験実習	1前	1			2	3	4	3	8				
	基礎看護援助論	1前	2			1	1							
	生活援助技術論	1後	2			1	1		2					
	看護理論	1後	1			1								
	生活援助実習	1後	2			3	3	4	3	7				
	看護倫理	2前	1			2		1						
	家族看護論	2後	1			1								
	療養援助技術論	2前	2			1	1		2					
	看護過程論	2前	1			2	2	1	5					
	療養援助実習 I	2前	2			1	3	3	3	7				
	療養援助実習 II	2後	2			1	3	3	2	7				
	成人看護学概論	1後	1			1							0	
	成人看護援助論	2前	1			1	1	1						
	生活習慣看護論	2後	1			1								
	慢性期看護技術論	3前	1			1	1							
	成人看護学実習 I	3前	2			1			1	1				
	急性期看護技術論	3後	1			1	1	1						
	がん看護論	3前	1					1						

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	探求の基礎	1前	2			1								
	英語 I	1後	2										1	
	英語 II	2前	2										1	
	医療英語	4後		1									1	
	情報処理	1前	2										1	
	調査と統計	3後	2										1	
	基礎ゼミナール	1通	2					6	2	3	5		3	
	健康とスポーツ	2通		2									1	
	対人コミュニケーション	1前	1					1					1	
	人間関係	1後	1					1					1	
	人間と心理	1前		1									1	
	発達と教育	1後		1									1	
	人間の生涯発達	1後	2					3	1	1				
	人間の生と死	2後	1					2						
	東アジアの文化	4後		1				1						
	西ヨーロッパの文化	4後		1				1						
	地域の文化	1前	1					1						
	暮らしの科学	1前	1											2
	人間と文化	1後	1										1	
家族という社会	2前	1										1		
憲法	2前		2									1		
社会と福祉	3前	1										1		
小計(22科目)			22	9	0	17	3	4	5	0		18		
専門基礎科目	自然科学	1前	1										1	
	環境生態学	1前		1									1	
	生化学	1前	1										1	
	形態機能学	1前	2										2	
	病態生理学	1後	2										1	
	疾病治療論 I	1後	2										5	
	疾病治療論 II	2前	2										7	
	疾病治療論 III	2後	1										3	
	ヘルスアセスメント	1前	1					1	1		2			
	メンタルヘルス論	1後		1				1						
	臨床栄養学	2前	1										1	
	臨床薬理学	2後	1										1	
	ボランティア論	1後		1									1	
	感染症学	1後	2										1	
	ヘルスプロモーション論	3前	2					1		1			1	
	チーム医療論	2後	2										1	
	医療経済学	4後		2									1	
	公衆衛生学・疫学	3前	2										1	
	災害援助論	3前	1							1			1	
保健医療福祉行政論	4前	2					1		1			1		
小計(20科目)			25	5	0	4	1	3	2	0		31		
専門科	看護学概論	1前	2			1								
	早期体験実習	1前	1			2	3	4	3	8				
	基礎看護援助論	1前	2			1	1							
	生活援助技術論	1後	2			1	1		2					
	看護理論	1後	1			1								
	生活援助実習	1後	2			3	3	4	3	7				
	看護倫理	2前	1			2		1						
	家族看護論	2後	1			1								
	療養援助技術論	2前	2			1	1		2					
	看護過程論	2前	1			2	2	1	5					
	療養援助実習 I	2前	2			1	3	3	3	7				
	療養援助実習 II	2後	2			1	3	3	2	7				
	成人看護学概論	1後	1			1							0	
	成人看護援助論	2前	1			1	1	1						
	生活習慣看護論	2後	1			1								
	慢性期看護技術論	3前	1			1	1							
	成人看護学実習 I	3前	2			1			1	1				
	急性期看護技術論	3後	1			1	1	1						
	がん看護論	3前	1					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
目	成人看護学実習Ⅱ	3後	2				1	1	1	1		
	老年看護学概論	1後	1			1						
	老年看護援助論	2前	2			1	1					
	老年看護技術論	2後	1			1	1					
	老年看護学実習	3前	2			1	1				2	
	母性看護学概論	2前	1			1						
	母性看護援助論	2後	2			1		1				
	母性看護技術論	3前	1			1		1				
	母性看護学実習	3通	2			1		1	1			
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護援助論	2後	2			2		2				
	小児看護技術論	3前	1			2		1				
	小児看護学実習	3通	2			2		2	1			
	精神看護学概論	2前	1			0						1
	精神看護援助論	2後	2			0		1				2
	精神看護技術論	3前	1			0		1	0			
	精神看護学実習	3後	2			0		1	0	1		
小計(36科目)			53	0	0	33	27	24	32	36	3	
統合科目	在宅看護学概論	3前	1			1		1				
	在宅看護援助論	3後	1			1		1				
	保健医療福祉連携論	3後	1					1				1
	在宅看護技術論	4前	1			1	1					
	在宅看護学実習	4前	2			1	1				2	
	地域看護学概論	3後	1			1						
	地域看護援助論	3後	1			1		1				1
	公衆衛生看護技術論	4前		2		1		1				1
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1		1				1
	地域看護学実習	4前	1			1	1	1		1	1	
	公衆衛生看護学実習	4前		4		1	1	1		1	1	
	リハビリテーション看護論	3前		1								1
	放射線看護論	3後		1								2
	セクシャルヘルスアセスメント	3後		1		1						
	エンドオブライフケア論	3後		1		2		2				
	災害看護論	4前		1				1				1
	感染看護論	4前		1								1
	看護教育論	4前		1		1						
	看護管理論	4前		1			1					1
	救急看護論	4後		1			2					
	国際看護論	4後		1				1				1
	臨床倫理	4後		1			2					
	総合実習	4後		2			7	3	4	5		1
	看護研究方法論	3後		1			1					1
	卒業研究ゼミナール	4通		4			7	3	4	5		3
小計(25科目)			20	15	0	31	9	22	10	4	18	
合計(103科目)			120	29	0	77	41	54	49	40	74	
卒業要件及び履修方法												
必修科目120単位、基礎科目、専門基礎科目の選択科目からそれぞれ1単位以上、統合科目の選択科目から3単位以上、計125単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:41単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
目	成人看護学実習Ⅱ	3後	2						1	1	1	
	老年看護学概論	1後	1					1				
	老年看護援助論	2前	2				1	1				
	老年看護技術論	2後	1				1	1				
	老年看護学実習	3前	2				1	1				2
	母性看護学概論	2前	1				1					
	母性看護援助論	2後	2				1		1			
	母性看護技術論	3前	1				1		1			
	母性看護学実習	3通	2				1		1	1		
	小児看護学概論	2前	1				1					
	小児看護援助論	2後	2				2		2			
	小児看護技術論	3前	1				2		1			
	小児看護学実習	3通	2				2		2	1		
	精神看護学概論	2前	1				1					
	精神看護援助論	2後	2				1		1			2
	精神看護技術論	3前	1				1			0		
	精神看護学実習	3後	2				1			0	1	
小計(36科目)			53	0	0	38	16	17	32	36	3	
統合科目	在宅看護学概論	3前	1			1		1				
	在宅看護援助論	3後	1			1		1				
	保健医療福祉連携論	3後	1					1				1
	在宅看護技術論	4前	1			1	1					
	在宅看護学実習	4前	2			1	1				2	
	地域看護学概論	3後	1			1						
	地域看護援助論	3後	1			1		1				1
	公衆衛生看護技術論	4前		2		1		1				1
	公衆衛生看護管理論	4前		2		1		1				1
	地域看護学実習	4前	1			1	1	1		1	1	
	公衆衛生看護学実習	4前		4		1	1	1		1	1	
	リハビリテーション看護論	3前		1								1
	放射線看護論	3後		1								2
	セクシャルヘルスアセスメント	3後		1			1					
	エンドオブライフケア論	3後		1			2		2			
	災害看護論	4前		1					1			1
	感染看護論	4前		1								1
	看護教育論	4前		1			1					
	看護管理論	4前		1				1				1
	救急看護論	4後		1					1			
	国際看護論	4後		1					1			1
	臨床倫理	4後		1			2					
	総合実習	4後		2			8	2	3	5		1
	看護研究方法論	3後		1					1			1
	卒業研究ゼミナール	4通		4			9	2	3	5		3
小計(25科目)			20	15	0	34	6	20	10	4	18	
合計(103科目)			120	29	0	93	26	44	49	40	70	
卒業要件及び履修方法												
必修科目120単位、基礎科目、専門基礎科目の選択科目からそれぞれ1単位以上、統合科目の選択科目から3単位以上、計125単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:41単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・准教授1名の就任辞退により、専任教員等の配置を「成人看護援助論、生活習慣看護論、慢性期看護技術論、成人看護学実習Ⅰ、急性期看護技術論」は「准教授1」から「准教授0」、「救急看護論」は「准教授2」から「准教授1」、「生活援助実習、療養援助実習Ⅰ、療養援助実習Ⅱ、総合実習、卒業研究ゼミナール」は「准教授3」から「准教授2」に、「成人看護学概論」は「准教授1」から「准教授0、兼任講師1」に変更。
- ・助教1名の就任辞退により、専任教員等の配置を「精神看護技術論、精神看護学実習」は「助教1」から「助教0」、「生活援助実習」は「助教4」から「助教3」、「基礎ゼミナール、看護過程論、総合実習、卒業研究ゼミナール」は「助教6」から「助教5」に変更。

【平成30年度】

- ・教授1名の辞任により、専任教員等の配置を「人間関係、メンタルヘルス論、精神看護学概論」は「教授1」から「教授0、兼任講師1」に、「対人コミュニケーション」は「教授1、兼任講師1」から「兼任講師2」に、「人間の生涯発達、早期体験実習」は「教授3」から「教授2」に、「総合実習」は「教授8」から「教授7」に、「精神看護援助論、精神看護技術論、精神看護学実習」は「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教授として就任予定者1名の死去により、専任教員等の配置を「人間の生と死」は「教授2」から「教授1」に、「地域の文化」は「教授1」から「教授0、兼任講師1」に変更。
- ・上記の教授2名の担当予定であった「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授4」に、「卒業研究ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授7」に変更。
- ・平成29年度に辞退した助教1名の後任として平成30年10月に専任講師1名が着任したため、専任教員等の配置を「看護過程論、精神看護援助論、精神看護技術論、精神看護学実習」は「講師0」から「講師1」に、「療養援助実習Ⅰ」は「講師2」から「講師3」に、「基礎ゼミナール、早期体験実習、生活援助実習、総合実習、卒業研究ゼミナール」は「講師3」から「講師4」に変更。
- ・准教授1名の就任により、専任教員等の配置を「成人看護学概論、生活習慣看護論、慢性期看護技術論、成人看護学実習Ⅰ、急性期看護技術論、成人看護学実習Ⅱ」は「准教授0」から「准教授1」に、「救急看護論」は「准教授1」から「准教授2」に、「基礎ゼミナール、早期体験実習、生活援助実習、療養援助実習Ⅰ、療養援助実習Ⅱ、総合実習、卒業研究ゼミナール」は「准教授2」から「准教授3」に変更。

【令和元年度】

- ・教授1名が着任したため、専任教員等の配置が、「人間関係、メンタルヘルス論、精神看護学概論」は「兼任講師1、教授0」から「兼任講師0、教授1」に、「対人コミュニケーション」は「教授0、兼任講師2」から「教授1、兼任講師1」に、「人間の生涯発達、早期体験実習」は「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教授1名が就任辞退し、後任の教授1名が着任した。担当科目の差があるため、「災害援助論、災害看護論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教授1名の担当科目が追加されたため、「在宅看護学概論、在宅看護援助論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・上記の教授3名の異動により、「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授7」に変更。
- ・兼任講師1名が令和元年度より専任講師として着任したため、専任教員等の配置を「地域の文化、人間と文化、家族という社会、社会と福祉、ボランティア論、チーム医療論」は「兼任講師1、講師0」から「兼任講師0、講師1」に、「看護研究方法論」は「兼任講師1」から「兼任講師0」に変更。
- ・専任講師として就任予定者1名が就任辞退したため、専任教員等の配置を「災害援助論、在宅看護学概論、在宅看護援助論、保健医療福祉連携論、在宅看護技術論、在宅看護学実習、災害看護論」は「講師1」から「講師0」に、「看護過程論、エンドオブライフケア論」は「講師2」から「講師1」に、「療養援助実習Ⅰ、療養援助実習Ⅱ」は「講師3」から「講師2」に、「早期体験実習、生活援助実習、総合実習」は「講師4」から「講師3」に変更。
- ・助手1名が助教に昇任したため、専任教員等の配置が、「母性看護援助論、母性看護技術論、母性看護学実習」は「助教1」から「助教2」に、「早期体験実習、生活援助実習」は「助教3」から「助教4」に、「基礎ゼミナール、看護過程論、総合実習、卒業研究ゼミナール」は「助教5」から「助教6」に変更。
- ・兼任講師1名が就任辞退したため、専任教員等の配置を「ヘルスプロモーション論、災害援助論、保健医療福祉行政論、保健医療福祉連携論、地域看護援助論、公衆衛生看護技術論、公衆衛生看護管理論、地域看護学実習、公衆衛生看護学実習、災害看護論」は「兼任講師1」から「兼任講師0」に変更。
- ・兼任講師1名が辞任したため、「精神看護援助論」の専任教員等の配置を「兼任講師2」から「兼任講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
82 科目	21 科目	0 科目	103 科目	82 科目	21 科目	0 科目	103 科目	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{103} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借地面積 4331.48㎡ 借用期間 平成28年4月1日より 25年			
	校舎敷地	2662.98㎡	㎡	㎡	2662.98㎡				
	運動場用地	1497.17㎡	㎡	㎡	1497.17㎡				
	小 計	4160.15㎡	㎡	㎡	4160.15㎡				
	そ の 他	171.33㎡	㎡	㎡	171.33㎡				
	合 計	4331.48㎡	㎡	㎡	4331.48㎡				
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	竣工時の実測による (29)			
		5122.12㎡ 5118.36㎡ (5122.12㎡) -(5118.36㎡)							
(3) 教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	4室		9室	3室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	看護学部 看護学科			27		室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	平成30年度まで紙媒体 で購読していた外国雑誌 5タイトルをすべて 電子ジャーナルでの購 読に変更(元)	
	看護学部	5,150 [500] (6,251 [423])	22 [5] (24 [0])	2 [2] (6 [6])	30 (94)	5,573 (6,892)	33 (20)		
	計	5,150 [500] (6,251 [423])	22 [5] (24 [0])	2 [2] (6 [6])	30 (94)	5,573 (6,892)	33 (20)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	326.8㎡		40		15,000				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	724.5㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	令和2年度入学生より 授業料改定のため、令 和2年度の第1年次の納 付金は1,600千円とな る。(元)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	16,496千円	8,941千円	2,500千円	
	共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	166,987千円	7,988千円	2,500千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,750千円	第2年次 1,500千円	第3年次 1,500千円	第4年次 1,500千円	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金、手数料収入など						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	岩手保健医療大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
看護学部 看護学科	年	人	年次 人	人	学士 (看護学)	倍		平成 29年度	岩手県盛岡市盛岡 駅西通1丁目6番30 号	
	4	80	-	320		0.90				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等					
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名	
専	教授	清水哲郎 <平成29年4月> 文学博士	清水哲郎 <平成29年4月> 文学博士	清水哲郎 <平成29年4月> 文学博士	清水哲郎 <平成29年4月> 文学博士	清水哲郎 <平成29年4月> 文学博士	
		探求の基礎 人間の生と死※ 西ヨーロッパの文化 看護倫理※ エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※	探求の基礎 人間の生と死※ 西ヨーロッパの文化 看護倫理※ エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※	探求の基礎 人間の生と死 西ヨーロッパの文化 看護倫理※ エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※	探求の基礎 人間の生と死 西ヨーロッパの文化 看護倫理※ エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※	探求の基礎 人間の生と死 西ヨーロッパの文化 看護倫理※ エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※	
専	教授	源中喜代 <平成29年4月> 修士(社会学)	源中喜代 <平成29年4月> 修士(社会学)	源中喜代 <平成29年4月> 修士(社会学)	源中喜代 <平成29年4月> 修士(社会学)	源中喜代 <平成29年4月> 修士(社会学)	
		基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 看護倫理※ 家族看護論 小児看護学概論 小児看護援助論※ 小児看護技術論 小児看護学実習 エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 看護倫理※ 家族看護論 小児看護学概論 小児看護援助論※ 小児看護技術論 小児看護学実習 エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 看護倫理※ 家族看護論 小児看護学概論 小児看護援助論※ 小児看護技術論 小児看護学実習 エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 看護倫理※ 家族看護論 小児看護学概論 小児看護援助論※ 小児看護技術論 小児看護学実習 エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 看護倫理※ 家族看護論 小児看護学概論 小児看護援助論※ 小児看護技術論 小児看護学実習 エンドオブライフケア論※ 臨床倫理※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	
兼	講師	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	
		基礎ゼミナール 地域の文化	基礎ゼミナール 地域の文化				
専	教授	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	中村一基 <平成29年4月> 文学修士	
		基礎ゼミナール 人間の生と死 地域の文化 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール 人間の生と死 地域の文化 卒業研究ゼミナール				
専	教授	砂山絵 <平成31年4月> 文学博士	砂山絵 <平成31年4月> 文学博士	砂山絵 <平成31年4月> 文学博士	砂山絵 <平成31年4月> 文学博士	砂山絵 <平成31年4月> 文学博士	
		東アジアの文化	東アジアの文化	東アジアの文化	東アジアの文化	東アジアの文化	
専	教授	豊嶋三枝子 <平成29年4月> 修士(教育学)	豊嶋三枝子 <平成29年4月> 修士(教育学)	豊嶋三枝子 <平成29年4月> 修士(教育学)	豊嶋三枝子 <平成29年4月> 修士(教育学)	豊嶋三枝子 <平成29年4月> 修士(教育学)	
		基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 看護学概論 早期体験実習 基礎看護援助論※ 生活援助技術論 看護理論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 急性期看護技術論 看護教育論 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 看護学概論 早期体験実習 基礎看護援助論※ 生活援助技術論 看護理論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 急性期看護技術論 看護教育論 総合実習 卒業研究ゼミナール				
専	教授	菊池和子 <平成30年4月> 修士(学術)	菊池和子 <平成30年4月> 修士(学術)	菊池和子 <平成30年4月> 修士(学術)	菊池和子 <平成30年4月> 修士(学術)	菊池和子 <平成30年4月> 修士(学術)	
		基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 看護学概論 早期体験実習 基礎看護援助論※ 生活援助技術論 看護理論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 急性期看護技術論 看護教育論 総合実習 卒業研究ゼミナール	基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 看護学概論 早期体験実習 基礎看護援助論※ 生活援助技術論 看護理論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 急性期看護技術論 看護教育論 総合実習 卒業研究ゼミナール				
兼	講師	藤野とわ子 <平成29年4月> 博士(看護学)	藤野とわ子 <平成29年4月> 博士(看護学)	藤野とわ子 <平成29年4月> 博士(看護学)	藤野とわ子 <平成29年4月> 博士(看護学)	藤野とわ子 <平成29年4月> 博士(看護学)	
		老年看護学概論	老年看護学概論				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			
専任	教授	福島道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学)	専任	教授	福島道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学)	専任	教授	福島道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学)	専任	教授	福島道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学)	専任	教授	福島道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学)
		ヘルスポモーション論 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 地域看護援助論 地域看護学実習 総合実習 卒業研究ゼミナール			ヘルスポモーション論 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 地域看護援助論 地域看護学実習 総合実習 卒業研究ゼミナール			ヘルスポモーション論 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 地域看護援助論 地域看護学実習 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール ヘルスポモーション論 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習 地域看護援助論 地域看護学実習 在宅看護援助論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール			
専任	准教授	竹本由香里 <平成29年4月> 修士(教育学)	専任	准教授	竹本由香里 <平成29年4月> 修士(教育学)	専任	准教授	竹本由香里 <平成29年4月> 修士(教育学)	専任	准教授	竹本由香里 <平成29年4月> 修士(教育学)	専任	准教授	竹本由香里 <平成29年4月> 修士(教育学)
		基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 早期体験実習 基礎看護援助論 生活援助技術論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 看護管理論 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 早期体験実習 基礎看護援助論 生活援助技術論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 看護管理論 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 早期体験実習 基礎看護援助論 生活援助技術論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 看護管理論 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール ヘルスアセスメント 早期体験実習 基礎看護援助論 生活援助技術論 生活援助実習 療養援助技術論 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 看護管理論 総合実習 卒業研究ゼミナール			
兼任	講師	新田綾子 <平成29年4月> 博士(健康科学)												
		成人看護学概論												
専任	准教授	新田綾子 <平成29年4月> 博士(健康科学)												
		生活援助実習 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論※ 生活習慣看護論 慢性期看護技術論 成人看護学実習Ⅰ 急性期看護技術論 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール												
兼任	講師	土田幸子 <平成30年4月> 修士(看護マネジメント学)	兼任	講師	土田幸子 <平成30年4月> 修士(看護マネジメント学)									
		成人看護学概論			成人看護学概論									
専任	准教授	土田幸子 <平成30年4月> 修士(看護マネジメント学)				専任	准教授	土田幸子 <平成30年4月> 修士(看護マネジメント学)				専任	准教授	土田幸子 <平成30年4月> 修士(看護マネジメント学)
		基礎ゼミナール 早期体験実習 生活援助実習 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論※ 生活習慣看護論 慢性期看護技術論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護技術論 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール						基礎ゼミナール 早期体験実習 生活援助実習 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論※ 生活習慣看護論 慢性期看護技術論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護技術論 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール					基礎ゼミナール 早期体験実習 生活援助実習 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 成人看護学概論 成人看護援助論※ 生活習慣看護論 慢性期看護技術論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護技術論 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール	
専任	准教授	木内千晶 <平成29年4月> 修士(看護学)	専任	准教授	木内千晶 <平成29年4月> 修士(看護学)	専任	准教授	木内千晶 <平成29年4月> 修士(看護学)	専任	准教授	木内千晶 <平成29年4月> 修士(看護学)	専任	准教授	木内千晶 <平成29年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 早期体験実習 生活援助実習 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 老年看護援助論※ 老年看護技術論 老年看護学実習 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 早期体験実習 生活援助実習 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 老年看護援助論※ 老年看護技術論 老年看護学実習 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 早期体験実習 生活援助実習 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 老年看護援助論※ 老年看護技術論 老年看護学実習 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール			基礎ゼミナール 人間の生涯発達※ 早期体験実習 生活援助実習 看護過程論 療養援助実習Ⅰ 療養援助実習Ⅱ 老年看護援助論※ 老年看護技術論 老年看護学実習 救急看護論※ 総合実習 卒業研究ゼミナール			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	栗林徹 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	栗林徹 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	栗林徹 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	相澤出 <平成31年4月> 博士(情報科学)			
		健康とスポーツ			健康とスポーツ			健康とスポーツ			基礎ゼミナール 地域の文化 人間と文化 家族という社会 社会と福祉 ボランティア論 チーム医療論 卒業研究ゼミナール			
兼任	講師	岩木信善 <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	岩木信善 <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	岩木信善 <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	岩木信善 <平成29年4月> 博士(心理学)			
		人間と心理			人間と心理			人間と心理			人間と心理			
兼任	講師	田代高章 <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	田代高章 <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	田代高章 <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	田代高章 <平成29年4月> 修士(教育学)			
		発達と教育			発達と教育			発達と教育			発達と教育			
兼任	講師	長澤由喜子 <平成29年4月> 修士(家政学)	兼任	講師	長澤由喜子 <平成29年4月> 修士(家政学)									
		暮らしの科学			暮らしの科学									
						兼任	講師	菅原尚史 <平成30年4月> 工学修士	兼任	講師	菅原尚史 <平成30年4月> 工学修士			
								暮らしの科学※			暮らしの科学※			
兼任	講師	川崎敏 <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	講師	川崎敏 <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	講師	川崎敏 <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	講師	川崎敏 <平成29年4月> 博士(医学)			
		暮らしの科学※ 自然科学			暮らしの科学※ 自然科学			暮らしの科学※ 自然科学			暮らしの科学※ 自然科学			
兼任	講師	菊池洋 <平成30年4月> 博士(法学)	兼任	講師	菊池洋 <平成30年4月> 博士(法学)	兼任	講師	菊池洋 <平成30年4月> 博士(法学)	兼任	講師	菊池洋 <平成30年4月> 博士(法学)			
		憲法			憲法			憲法			憲法			
兼任	講師	竹原明秀 <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	竹原明秀 <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	竹原明秀 <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	竹原明秀 <平成29年4月> 理学博士			
		環境生態学			環境生態学			環境生態学			環境生態学			
兼任	講師	川崎雅志 <平成29年4月> 博士(農学)	兼任	講師	川崎雅志 <平成29年4月> 博士(農学)	兼任	講師	川崎雅志 <平成29年4月> 博士(農学)	兼任	講師	川崎雅志 <平成29年4月> 博士(農学)			
		生化学			生化学			生化学			生化学			
兼任	講師	遠山穠二郎 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	遠山穠二郎 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	遠山穠二郎 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	遠山穠二郎 <平成29年4月> 医学博士			
		形態機能学			形態機能学			形態機能学 病態生理学			形態機能学 病態生理学			
兼任	講師	松本光比古 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	松本光比古 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	松本光比古 <平成29年4月> 医学博士	兼任	講師	松本光比古 <平成29年4月> 医学博士			
		形態機能学			形態機能学			形態機能学			形態機能学			
兼任	講師	武田利明 <平成29年4月> 博士(獣医学)	兼任	講師	武田利明 <平成29年4月> 博士(獣医学)									
		病態生理学 臨床薬理学			病態生理学 臨床薬理学									

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
								兼任 講師						
兼任	講師	井上 都之 <平成29年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	井上 都之 <平成29年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	井上 都之 <平成29年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	井上 都之 <平成29年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	井上 都之 <平成29年4月> 修士(看護学)
		感染症学 感染症看護論			感染症学 感染症看護論			感染症学 感染症看護論			感染症学 感染症看護論			感染症学 感染症看護論
兼任	講師	奥寺 三枝子 <平成31年4月> 専修学校	兼任	講師	奥寺 三枝子 <平成31年4月> 専修学校	兼任	講師	奥寺 三枝子 <平成31年4月> 専修学校	兼任	講師	奥寺 三枝子 <平成31年4月> 専修学校	兼任	講師	奥寺 三枝子 <平成31年4月> 専修学校
		ヘルスプロモーション論 災害援助論 保健医療福祉行政論 保健医療福祉連携論 地域看護援助論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 地域看護学実習 公衆衛生看護学実習 災害看護論			ヘルスプロモーション論 災害援助論 保健医療福祉行政論 保健医療福祉連携論 地域看護援助論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 地域看護学実習 公衆衛生看護学実習 災害看護論			ヘルスプロモーション論 災害援助論 保健医療福祉行政論 保健医療福祉連携論 地域看護援助論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 地域看護学実習 公衆衛生看護学実習 災害看護論			ヘルスプロモーション論 災害援助論 保健医療福祉行政論 保健医療福祉連携論 地域看護援助論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 地域看護学実習 公衆衛生看護学実習 災害看護論			ヘルスプロモーション論 災害援助論 保健医療福祉行政論 保健医療福祉連携論 地域看護援助論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 地域看護学実習 公衆衛生看護学実習 災害看護論
兼任	講師	吉田 裕人 <平成32年4月> 博士(学術)	兼任	講師	吉田 裕人 <平成32年4月> 博士(学術)	兼任	講師	吉田 裕人 <平成32年4月> 博士(学術)	兼任	講師	吉田 裕人 <平成32年4月> 博士(学術)	兼任	講師	吉田 裕人 <平成32年4月> 博士(学術)
		医療経済学			医療経済学			医療経済学			医療経済学			医療経済学
兼任	講師	立身 政信 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	立身 政信 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	立身 政信 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	立身 政信 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	立身 政信 <平成31年4月> 医学博士
		公衆衛生学・疫学			公衆衛生学・疫学			公衆衛生学・疫学			公衆衛生学・疫学			公衆衛生学・疫学
兼任	講師	石山 哲 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石山 哲 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石山 哲 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石山 哲 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石山 哲 <平成30年4月> 博士(医学)
		精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論
								兼任 講師			兼任 講師			兼任 講師
兼任	講師	遠藤 雅俊 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	遠藤 雅俊 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	遠藤 雅俊 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	遠藤 雅俊 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	遠藤 雅俊 <平成30年4月> 博士(医学)
		精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論			精神看護援助論
兼任	講師	泉キヨ子 <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	泉キヨ子 <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	泉キヨ子 <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	泉キヨ子 <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	泉キヨ子 <平成31年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション看護論			リハビリテーション看護論			リハビリテーション看護論			リハビリテーション看護論			リハビリテーション看護論
兼任	講師	細川 洋一郎 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	細川 洋一郎 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	細川 洋一郎 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	細川 洋一郎 <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	細川 洋一郎 <平成31年4月> 医学博士
		放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論
兼任	講師	野戸 結花 <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	野戸 結花 <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	野戸 結花 <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	野戸 結花 <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	野戸 結花 <平成32年4月> 博士(医学)
		放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論			放射線看護論
兼任	講師	鶴田 恵子 <平成32年4月> 看護学修士	兼任	講師	鶴田 恵子 <平成32年4月> 看護学修士	兼任	講師	鶴田 恵子 <平成32年4月> 看護学修士	兼任	講師	鶴田 恵子 <平成32年4月> 看護学修士	兼任	講師	鶴田 恵子 <平成32年4月> 看護学修士
		看護管理論			看護管理論			看護管理論			看護管理論			看護管理論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・新田純子准教授が就任辞退。
- ・平成29年4月就任予定の齊藤美恵専任講師の就任時期が平成31年4月に延期。
- ・石川真助教が就任辞退。

【平成30年度】

- ・平成30年4月に就任予定であった中村一基教員が死去。担当科目の「人間の生と死」は清水哲郎教授、「地域の文化」は相澤出兼任講師に変更。
- ・豊嶋三枝子教授が平成30年3月で辞任のため、菊池和子教授に変更。（平成29年12月教員審査済）
- ・山本勝則教授が平成30年3月辞任のため、担当科目のうち「対人コミュニケーション、人間関係、メンタルヘルズ論」は工藤一恵兼任講師、「精神看護学概論」は伊藤兼任講師に変更。精神看護学分野の教授の後任は現在募集中。
- ・新田純子准教授が就任辞退のため、土田幸子准教授に変更。（平成29年8月教員審査済）
- ・平成31年4月に就任予定であった青柳美樹講師が平成30年4月就任に変更。
- ・石川真助教の後任として長南幸恵講師が平成30年10月就任。（平成30年7月教員審査済）
- ・長澤由喜子兼任講師が辞任のため、菅原尚史兼任講師に変更。
- ・武田利明兼任講師が辞任のため、担当科目の「病態生理学」は遠山稿二郎兼任講師、「臨床薬理学」は片倉久美子兼任講師に変更。
- ・久保川学兼任講師が辞任のため、担当科目の「疾病治療論Ⅰ」は高橋浩兼任講師、「疾病治療論Ⅱ」は望月泉兼任講師に変更。
- ・石山哲兼任講師が辞任のため、楠野泰之兼任講師に変更。
- ・石山隆兼任講師が辞任のため、岩田学兼任講師に変更。

【令和元年度】

- ・平成29年度辞任の山本勝則教授の後任として岡田実教授が平成31年4月就任。伊藤兼任講師、工藤一恵兼任講師は終了。（平成30年11月教員審査済）
- ・神山幸枝教授が就任辞退。後任として大越扶貴教授が平成31年4月就任。（平成31年1月教員審査済）
- ・福島道子教授の担当科目に「基礎ゼミナール、総合実習、卒業研究ゼミナール」を追加。（平成30年11月教員審査済）
- ・齊藤美恵専任講師が就任辞退。後任未定。
- ・平成29年度就任の佐藤恵助手が平成31年4月より助教に昇任。（平成30年11月教員審査済）
- ・相澤出兼任講師が平成31年4月より常勤講師として就任。（平成30年11月教員審査済）
- ・奥寺三枝子兼任講師が就任辞退。
- ・遠藤雅俊兼任講師が辞任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
19 名	10 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
11	3	3	6	23	10	3	4	6	23
(6)	(2)	(2)	(6)	(16)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
10	3	4	6	23	10	3	4	6	23
[Δ 1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[Δ 1]	[0]	[1]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	9 名	9 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況 (C)}}{\text{設置時の計画 (A)}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況 (B)}} = \frac{9}{23} = \boxed{39.13} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択 自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	准教授	新田 純子	1後	必修	生活援助実習	①	体調不良のため就任辞退（29）
			2前	必修	療養援助実習Ⅰ	①	
			2後	必修	療養援助実習Ⅱ	①	
			1後	必修	成人看護学概論	①	
			2前	必修	成人看護援助論	①	
			2後	必修	生活習慣看護論	①	
			3前	必修	慢性期看護技術論	①	
			3前	必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
			3後	必修	急性期看護技術論	①	
			4後	選択	救急看護論	①	
			4後	必修	総合実習	①	
			4通	必修	卒業研究ゼミナール	①	
2	講師	齊藤 美恵	1前	必修	基礎ゼミナール	①	本人の希望のため就任延期（29） 本人の希望のため就任辞退（元）
			3前	必修	災害援助論	①	
			1前	必修	早期体験実習	①	
			1後	必修	生活援助実習	①	
			2前	必修	療養援助実習Ⅰ	①	
			2後	必修	療養援助実習Ⅱ	①	
			3前	必修	在宅看護学概論	①	
			3後	必修	在宅看護援助論	①	
			3後	必修	保健医療福祉連携論	③	
			4前	必修	在宅看護技術論	①	
			4前	必修	在宅看護学実習	①	
			3後	必修	エンドオブライフケア論	①	
			4前	必修	災害看護論	①	
			4後	必修	総合実習	①	
4通	必修	卒業研究ゼミナール	①				
3	助教	石川 真	1前	必修	基礎ゼミナール	①	体調不良のため就任辞退（29）
			1後	必修	生活援助実習	①	
			2前	必修	看護過程論	①	
			2後	必修	療養援助実習Ⅱ	①	
			3前	必修	精神看護技術論	①	
			3後	必修	精神看護学実習	①	
			4後	必修	総合実習	①	
4通	必修	卒業研究ゼミナール	①				
4	教授	中村一基	1通	必修	基礎ゼミナール	①	死去のため就任できず（30）
			2後	必修	人間の生と死	①	
			1前	必修	地域の文化	①	
			4通	必修	卒業研究ゼミナール	①	
5	教授	神山幸枝	3前	必修	在宅看護学概論	①	本人の希望のため就任延期（元）
			3後	必修	在宅看護援助論	①	
			4前	必修	在宅看護技術論	①	
			4前	必修	在宅看護学実習	①	
			4後	必修	総合実習	①	
4通	必修	卒業研究ゼミナール	①				

合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
5	必修	44	科目	必修	43	科目	必修	0	科目
	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	45	科目	計	44	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---------------------------------|
| ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 |
| ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	豊嶋三枝子	H29.3	必修	基礎ゼミナール	①	H29.3.31付自己都合のため辞任 (29)
				必修	ヘルスアセスメント	①	
				必修	看護学概論	①	
				必修	早期体験実習	①	
				必修	基礎看護援助論	①	
				必修	生活援助技術論	①	
				必修	看護理論	①	
				必修	生活援助実習	①	
				必修	療養援助技術論	①	
				必修	看護過程論	①	
				必修	療養援助実習 I	①	
				必修	急性期看護技術論	①	
				必修	看護教育論	①	
				必修	総合実習	①	
2	教授	山本勝則	H29.3	必修	基礎ゼミナール	①	H29.3.31付自己都合のため辞任 (29)
				選択	対人コミュニケーション	①	
				必修	人間関係	①	
				必修	人間の生涯発達	①	
				選択	メンタルヘルス論	①	
				必修	早期体験実習	①	
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	精神看護援助論	①	
				必修	精神看護技術論	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	総合実習	①	
				必修	卒業研究ゼミナール	①	

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)										
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)						
2	人	必修	25	科目	必修	25	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	27	科目	計	27	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)						
7	人	必修	69	科目	必修	68	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	72	科目	計	71	科目	計	0	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{7}{23} = 30.43 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
設 置 時 (平成28年8月)	設置の主旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 留意事項を踏まえ、設置計画に沿って確実に履行していくとともに、より高度な教育活動を推進していくよう努めております。	履行済	
	授業科目「東アジアの文化」の授業内容について、中国圏の人々の文化を学修するものに改めるのであれば、授業科目名についても、当該授業内容を反映した名称に適切に改めること。	留意事項 令和2年度後期開講科目として留意事項の内容を十分に踏まえ、適切な名称となるよう検討して参ります。	未履行	学生の個々の目標とするキャリアに合わせた主体的な学習を促すための選択科目として、その内容等を十分に説明できるよう努めます。
	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 大学設置認可申請に基づき、教員の計画的採用を進めるとともに、大学完成年度以降における教員配置については適正な教員組織編制となるよう定年、退職に関する就業規則に則り、計画的な採用に努めて参ります。	履行中	留意事項の内容を十分に踏まえ、完成年度以降の教育体制に支障を来たさないよう、引続き適切な人材確保に努めて参ります。
設置計画履行状況調査 (平成30年2月)	看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規定の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に履行すること。	留意事項 大学設置認可申請に基づき、教員の計画的採用を進めるとともに、大学完成年度以降における教員配置については適正な教員組織編制となるよう定年、退職に関する就業規則に則り、計画的な採用に努めて参ります。	履行中	留意事項の内容を十分に踏まえ、完成年度以降の教育体制に支障を来たさないよう、引続き適切な人材確保に努めて参ります。
設置計画履行状況調査 (平成31年3月)	該当なし			

その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD委員会設置（平成29年4月1日制定）平成29年度は教員4名職員1名、平成30年度は教員6名、職員1名、令和元年度は教員7名職員1名が担当。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年4月3日（6名）、5月7日（6名）、6月4日（6名）、7月2日（6名）、9月3日（7名）、10月1日（6名）、11月5日（6名）、12月3日（5名）、平成31年1月6日（7名）、2月12日（7名）、3月4日（7名）に実施（計11回）

c 委員会の審議事項等

- ・ 活動計画、役割分担について審議
- ・ 教育理念、教育過程の理解及び共有のための学長・学部長による研修会開催について
- ・ 各種FD/SD研修会の計画、運営について
- ・ 授業評価及び成績評価に関するFDの実施について

② 実施状況

a 実施内容

- 1) 実習指導に関するFD研修会
- 2) 科学研究費補助金獲得に向けてのFD研修会
- 3) 「ケア・スピリット」について理解を深めよう(全2回)
- 4) 研修報告会「2018年度大学新任教員のための研修会」
- 5) 看護研究における倫理的配慮
- 6) ナーシンググラフィカ説明会
- 7) 成績不振学生への学習支援
- 8) AEDを用いた一次救命講習会
- 9) 研修報告会 (FD・SD研修会)
- 10) FDマザーマップについて
- 11) タブレット教育方法FD
- 12) 2018年度実習指導反省会
- 13) 東大インタラクティブ・ティーチング(全16回)

b 実施方法

- 1) 実習科目の終了後、反省点等について議論し、改善を図った。
- 2) 科研費補助に採択されやすくなるための工夫について研修を行った。
- 3) 建学の精神に掲げる「ケア・スピリット」に関し、平成29年度の学内研究グループによる研究報告と学長による講義を行った。(FD・SDそれぞれ1回実施)
- 4)、9) 研修参加者による伝達講習を行った。
- 5) 外部講師を招聘し、研究に関する不正行為防止等に係る研修を行った。
- 6) デジタル教科書のメーカー担当者による説明会を行った。
- 7) 学内教員で成績不振学生に関する課題を共有し、学習支援の方策を検討した。
- 8) 演習用AEDを用いて発見からAEDと心臓マッサージによる心肺蘇生法までの演習を行った。
- 10) 本学で登録しているマザーマップについて、平成30年度着任の教員を対象とし、登録作業を行った。
- 11) 学内共同研究班による、タブレット端末を用いた教育についての研修を行った。
- 12) 本学教員と実習指導者合同で、インシデントの共有等を行い、実習の改善を図った。
- 13) 新任教員を対象に動画教材とワークシートを用いた研修を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 1) 6月25日開催(18名参加)
- 2) 7月9日開催(14名参加)
- 3) FDは7月23日開催(21名参加)、SDは10月19日開催(職員15名参加)
- 4) 8月23日開催(14名参加)
- 5) 9月10日開催(16名参加)
- 6) 10月19日開催(18名参加)
- 7) 11月15日開催(22名参加)
- 8) 11月29日、30日に開催(教職員合わせて20名参加)
- 9) 1月18日開催(教職員合わせて27名参加)
- 10) 2月18日開催(5名参加)
- 11) 2月18日開催(22名参加)
- 12) 2月28日開催(19名参加)
- 13) 6月28日から2月28日にかけて16回開催(5名参加)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- 1) 下記の内容についてFD・SDの視点で本学の現状を分析しニーズに合った研修会を開催する。
 - (1) 「ケア・スピリット」を学生の内に涵養するための教育方法
 - (2) 各委員会で希望する研修会の開催支援（もしくは共同開催）
 - (3) 外部で開催の研修会への教職員の派遣
- 2) FDマザーマップ®の活用

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成29年度前期から実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

回答内容を数値化して学内ホームページ上で公開している。担当教員にはより詳細な回答を送付する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

自己点検評価に関し審議するため、自己点検評価委員会を設置した。
本学は設置認可後のACの段階にあり、設置審査内容に沿って自己点検、評価を行いながら大学の質の保証を図っていき、外部評価、認証評価及びその他の第三者評価を受けるべく準備を進めていく。

② 自己点検・評価報告書

- (1) 各委員会から出された活動内容に関して、必要な内容が網羅されているか点検し、必要時検討を求める。
- (2) 年度末に各委員会、研究領域毎に報告書を作成させ、点検整備したうえで自己点検・評価報告書(委員会活動報告と教育・研究年報)を作成する。(学内版)

a 公表(予定)時期

自己点検評価報告書完成後に一部公表する。

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、学内に配付する。
- ・教育研究年報のPDF版をHP上で公開する。

③ 認証評価を受ける計画

- ・日本高等教育評価機構による評価を受審するための体制整備等を検討している。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和元年度)

- a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)
- b 公表有の場合の公表(予定)時期 (令和元年 11月 15日)
- b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

FD委員会規程

(平成29年4月1日制定)

(設置)

第1条 岩手保健医療大学看護学部に、FD (Faculty Development)、SD (Staff Development) に関し審議するため、FD委員会（以下「委員会」という）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、必要な事項を処理する。

- (1) FD・SD活動に関する情報の収集と提供に関すること。
 - (2) FD・SD活動の企画立案に関すること。
 - (3) FD・SD活動の実施に関すること。
 - (4) FD・SD活動の評価に関すること。
 - (5) 教育方法、教育能力の向上に関すること。
 - (6) 授業評価の実施とその検討に関すること。
 - (7) その他教員の授業改善に関すること。
 - (8) その他FD・SDに関して必要なこと。
- 2 委員会は、前項に掲げた職務の一部を、必要に応じて他の委員会に委託することができる。
- 3 委員会は、必要に応じて他の委員会の職務の一部を受託することができる。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教員メンバーから3名程度
 - (2) その他委員会が必要と認めた者若干名
- 2 委員長および前項第1号に掲げる委員は、学部長が決定し学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号および第2号に掲げる委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 欠員により補充された委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 委員会に、専門的事項を審議するとともに必要な事項を処理するため、必要に応じ、部会を置くことができる。

2 部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。